

## 2025年万博基本構想検討会議

### 第2回 整備等部会 議事録

#### 【開催概要】

- 1 開催日時 平成28年8月12日（金） 16時30分～18時00分
- 2 場 所 大阪府咲洲庁舎23階 中会議室
- 3 出席委員

#### <有識者>

江原委員、嘉名委員、澤田委員、玉井委員、橋爪委員、溝畑委員、森下委員

#### <行政>

伊吹委員（代理出席：青山博覧会推進室長補佐）、田代委員（代理出席：種村副町長）、  
田中委員（代理出席：高橋都市計画局理事）、田村委員

#### <経済界>

出野委員（代理出席：野島産業部長）、児玉委員

#### 【議事次第】

- (1) 会場候補地について（視察結果も踏まえた意見交換）
- (2) テーマ展開としての必要施設・施設群・ゾーンの考え方

#### 【配布資料】

- 資料 1 : 「21世紀万国博覧会基本構想」  
(愛知万博の地元基本構想) の主要施設部分抜粋
- 資料 2-1 : 上海万博施設概要
- 資料 2-2 : ミラノ万博施設概要

#### 【内容】

##### ○事務局

事務連絡、配布資料の確認

##### ○橋爪部会長

それでは、本日の部会を進めさせていただきたいと思います。見学会、視察会で押しておりますが、およそ当初予定通り6時には終わりたいと思っております。議事が2つございますが、まず(1)会場候補地について、視察の結果等も踏まえて意見交換。(2)テーマ展開としての必要施設、施設群、ゾーンの考え方ということですが、おそらく(2)の方は資料紹介等で終わって意見交換する時間がないかと思っております。

ますので、よろしくお願いいたします。

まず1回目の前回の会議で副部長ということで嘉名委員を指名しましたが、前回欠席されていたので、本日まず一言ご挨拶いただければと思います。お願いします。

#### ○嘉名委員

前は欠席して申し訳ございませんでした。大阪市立大学の嘉名でございます。部会、副部長ということで、橋爪部長より指名をいただいております。部長に事故がなければ大した仕事はないと思いますけれども、部長を補佐して頑張っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

#### ○橋爪部長

では、会議を進めてまいりたいと思いますが、議事に入ります前に、事務局から会場候補地のひとつである夢洲の検討状況について説明をお願いいたします。

#### ○事務局

それでは事務局の方から議事に先立ちまして、本日視察いただきました夢洲について、簡単にご報告だけさせていただきますと思います。

第1回の整備等部会で概要説明をさせていただきました候補地7か所ございましたけれども、そのうちの夢洲地区につきましては、現在、大阪府と大阪市におきまして埋め立てであるとか、交通インフラにかかる技術的な観点から、会場とすることが可能かどうか検討しているところでございます。夢洲にかかる知事の思いとしまして、埋め立ての追加コストが必要となるやり方というのはどうかというような話があったりとか、既に埋め立てが完了しております90haのエリアで万博であるとか、IR、そういったものをうまく組みあわせて、舞洲などを含むベイエリア全体で開催することが出来ないのかというふうな話がございます。先日その内容が新聞報道という形で出てきたところでございます。そのような条件の下で、夢洲につきましては、会場としてトータルでどれくらいの面積が確保できるのかというような、技術的な課題が残っておりますので、引き続き大阪府と大阪市の技術検討会の中で検討を進めますとともに、この整備等部会の委員の先生方におかれましては、本日視察をいただきました場所も含めて、様々な観点から幅広くご意見を賜りまして、今後、それらの結果を踏まえて会場をどうするのかということで、判断をしていきたいというふうに考えております。今後もこうした市内の状況につきましても、ご報告をさせていただきますと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

## ○橋爪部会長

今の説明に関しまして何かご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。では後で、まとめてご意見あればと思います。

では議事に入ります。まず会場候補地についてということで、本日の視察の結果、ご感想とかご意見も頂ければと思います。前回の部会におきましては、会場候補地の7か所に関しまして現地調査の報告を紙ベースといたしますか、報告がございました。各委員からのご意見の中には、やはり夢洲しかないのではないのかとか、あと緑化が必要ではないかとかいうふうなご意見もございました。本日、会場の候補地の7か所の内、万博記念公園、大泉緑地、舞洲、夢洲の4か所を視察していただきました。各候補地の検討課題等も現場で説明があったかと思えます。万国博覧会記念公園は、70年万博の会場であります。ご覧いただいた太陽の塔の周辺の広場、大体20ha程度が会場になり得るだろうというふうなことかと思えます。ただ前回も説明ありましたように、希少生物の生息する森が広がっているということに関して、どう考えるのかというのがひとつのポイントかと思われまます。

大泉緑地は面積が100haほどございまして、都市公園として整備されており、中央に芝生広場、花壇等があり、森が広がっております。当該公園を含みます府営公園は、地元の防災拠点と位置付けられているということで、面積的には条件を満たすところではありますが、市街地の中の公園ということで、どうかということを考える必要があるかと思えます。

舞洲に関しましては、土地の利用が進んでおり、まとまった平面でございまして空の広場などを視察いただいたということでもあります。ただ、この地区は2025年以降まで、民間企業に賃貸している場所があり、また一部エリアは廃棄物の埋め立て地であるというあたりをどう考えるのかというのがポイントかと思われまます。

夢洲に関しましては、西側、メガソーラーの土地が廃棄物処分地であり、東側はロジスティック、国際物流の施設に既に使用が始まっております。中央北側の埋め立て完成地区と、これから埋め立てる南側の地区に分けられており、大阪市においては国際観光拠点化を目指して、次のアイデア募集を進めておるという状況であります。

各候補地それぞれに、それぞれ条件が違うということではありますが、本日、ご覧いただけておりませぬ彩都、服部緑地、花博記念公園、鶴見緑地公園等も候補地となっております。視察の結果なども含めまして、率直な意見がいただければと思います。時間が限られておりますので、この件に関しましてご意見あればと思いますがいかがでしょうか。どうぞ。

## ○玉井委員

私の感想なんですけど、たぶんみなさん夢洲の線が強いのかなと思うのですが、先程、事務局の方もおっしゃっていましたが、かなり予算がかかりそうだと。トンネルはある

けど鉄道敷いて駅も作るのに500億ぐらいかかるのではないかといった話がありまして、他にも埋め立ての費用であるとか、それこそいろんな費用を鑑みると財政的に本当に苦しそうな感じがしますね。IRの設備と一緒にという話やったらちょっと別の考え方があるのかもしれませんが、この万博だけで考えた場合に採算に合うのかどうかというのがちょっと私の中では疑問です。それから南の方にある公園ですけど、100haあるということですけどもかなり池の部分が占めていて、有効利用が本当にできるのかという話ですね。取得地もたくさんしてパビリオンを構築するには相当変形しないといけないのではないかという懸念があります。それから最初に行った千里の万博の跡地なんですけど、私は一番押しかなと思っているんですね、個人的な意見で申し訳ないのですが。今までの万博で1回やったところを再利用して使ったところがありますかね。パリは町中にありますからそれらしい使い方をされていると思いますが、いまエコの時代であるとか環境であるとか、そういうことを考えますと一回使ったところをもう一回我々の力ですごく立派にしてお金をかけずにというのもテーマとしてはいいかなと思うんですね。今回のメインテーマであります健康とか長寿というのは、人のこの命を長らえるという、そこにテーマがありますけども、土地とか跡地に関してもテーマをそういう切り口で捉えるとなると割かし捨てたものじゃないのかなと思いました。

#### ○橋爪部会長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。  
現場に行かれた方。

#### ○澤田委員

改めて現場を見てきてですね。だいたい話があったとおりなのですが、万博公園は比較利用しやすい中央部分にも樹木がいっぱいあってかなり伐採しないといけないので、住民、環境団体など合意が取れないのではないかと思いますし、そうしたとしてもそれだけでは相当狭いだろうということ。それからパーク&ライドにしないといけないので別コストが事業費でかかってくるだろうなということが気になります。大泉緑地は防災拠点なので防災拠点を利用することはおそくないのではないかと思います。万博公園より全体の面積が小さい割には森の面積が大きいので、それを皆伐に近い形で切らないといけないのでまず無理だろうと。ここもパーク&ライドが必要なことと池の面積も含めるとかなり狭いなということですね。舞洲では建築はほとんど作れないということなので、まずここは無理、それに狭すぎるということですね。そうすると可能性が残っているのは夢洲で、土地が更地なので、ただ恒久整備が事業費も含めて追いつくかどうかということがポイントにはなると思いますが、立候補して可能性があるのは夢洲ではないかと。万博公園も環境の保全がきちっとできればということなんですが、おそらく不可能だと思われるので反対運動も含めて別なものが起こってなかなか進みにくいのではないかなと思います。

○橋爪部会長

他はいかがでしょうか。

○江原委員

まず、アクセスという視点から見たときに、交通・インフラ建設に金がかかるとは思うのですが、相対的に夢洲がいいのかなという感じがしました。また、万博後の跡地を念頭に置いた場合、大阪府あるいは大阪市が今後どのような都市設計していくかということが重要になると思います。そんなことを考えると、夢洲の開発には、未来があるような感じがしました。それから、万博開催に向け一から手を付けられるという自由があるという感じがしました。その他の候補地ですが、まず、万博公園もいいのかなと思ったのですが、既存の施設との関係をどうするのかということところが気になりました。大泉緑地は防災拠点であるという点がありますが、ただ防災拠点であるということは、万一、災害が発生した時に、多くの万博参観者にも避難のメリットがあるという見方が出来るのではと思います。緑が非常に多くて、テーマに合っていていいなと思いましたが、緑がうっそうとしていっただけに、会場建設などで、木を伐らなければいけなくなった時、環境問題が出てくるのではないかと感じました。取捨選択していくと、いろいろ問題がまだあるかと思いますが、最終的には夢洲かなという印象を持ちました。

○橋爪部会長

ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。

○嘉名副部会長

物理的に100haの空間を確保できるかどうかという意味においては夢洲が可能性があるのかなと思うのですが、みなさんがおっしゃっているようにコストの問題、それから想定されている街づくりとの整合性、このあたりに大きな課題が残っているのは確かで、手放しですぐOKという状況でもないのも確かかなと思っています。その一方で、埋め立て地なので比較的形のいい敷地が確保できるという条件が整っている一方で、とすれば、殺風景な会場といいますか、そういうことにもなりかねないという気もするんですね。やっぱり会場計画をする上で埋め立て地は逆に不利な部分もあるのかなという気もします。大泉、万博についてはもちろん環境的な問題とか防災にも課題はあるんですけど、今回のテーマである健康、長寿、高齢者ということであると、例えば大泉は日本初のニュータウンで金岡団地のすぐ近くですし、万博は千里ニュータウンとか、街のリニューアルとかそういうことと絡めていくということにおいては、ストーリーは描きやすい気もします。ですから、物理的に100haという会場自体が必要だということですけど、周辺のまちづくりと併せて、あるいは健康、高齢者というようなコンセプトで周辺の街と連動してという

意味においては大泉あるいは万博も可能性があるかなと思います。以上です。

○橋爪部会長

他ご意見いかがでしょうか。お願いします。

○溝畑委員

まず万博の開催の意義というのが、やはり私は大阪が西日本のハブとして、そしてまた大阪が東京一極集中の二極を担う一つの柱として、今後、文化、観光、MICE、医療の一つの拠点都市となっていくための起爆剤であるということ考えた場合にやはり今夢洲というのは従来より大阪府市・経済界の中で、ここを国際、観光、MICE、文化拠点にしていこうという大きな戦略があるわけで、結局コストがかかっても、結果としてそれを倍3倍4倍あるいは10倍20倍の投資を誘発できるのであれば、そこはある程度私はコストがあっても十分にチャレンジすべきテーマかなと。ですから、一過性のイベントではなくて、これに併せて大阪そしてまた関西全体の都市政策、観光政策、文化政策、医療政策としてきちり位置づけるというのであれば、私はそう考えた場合に、今まで唐突に夢洲が出てきたというよりは、夢洲ってそういった形の拠点としての位置づけが十分されてきた経緯もあるので、そういう意味ではコストの分をいかに全体として投資を誘発して回収していくか。MICE、観光、文化そういった分野で回収できることが実証できれば、検証できれば、夢洲がベストかなというふうに思います。

○橋爪部会長

ありがとうございました。行政、経済界の委員の方、何かございますでしょうか。お願いします。

○田村委員

きちりとした土地を確保するという点では、夢洲だろうと思います。その時に、今埋め立ての費用やアクセスの整備の費用がかなり今後話題になってくると思います。過去の日本でやった万博の経緯からいっても、あるいは少し根本的な考え方で、インフラ整備を万博のコストのうちに含めて考えるのか、考えないのか、その辺りの問題があるかと思います。200億円の埋め立ての費用とか、アクセス等も含めて500億円とか言われていますが、それはアクセス整備であると考えれば、万博のコストとは別だという考え方もありうるのではないかなという気もします。もしそういう考え方が成り立つならば、夢洲は190ha以上とれるという話のようでもありますので、いいのではないかなという感じもします。以上です。

○橋爪部会長

ありがとうございます。他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、会場候補地について、視察の感想等を伺いました。前回、澤田委員から説明がありましたように、B I Eへの申請に向かって必要な面積、およそ100haは確保しなければいけないと。それは、一つの会場、ないしは近い所で1会場とみなせるようなサテライトがあるようなまとまった会場という意味合いではありますが、そういうことも含めて、必要な面積を確保しなければいけない。既存の公園などを会場に転用する場合等でも、環境への配慮等も考えなければならない。あとアクセスをどうするのか。あと、今あまりご意見ございませんでしたが、跡地の活用方法もきっちり記載していくということでもあります／交通アクセスの課題も、跡地利用がこうだということが前提として、基盤整備等を我々は計画していかなければならないというふうに思われます。本日のご意見・ご感想等を踏まえながら、今後会場を候補地から絞っていくということになるかと思えます。よろしくお願いいたします。

では、残り15分ほどしかございませんが、議事の二つ目、テーマ展開としての必要施設、施設群、ゾーンの考え方について、ご議論いただければと思います。資料1をご覧ください。資料1は、2005年愛・地球博の地元、実際の会場の最終的な計画ではなくて、地元・愛知県がまとめました基本構想のうち、会場内の主要施設・ゾーニング・土地利用に関する考え方が示された部分を抜粋したものでございます。あと、資料2は2010年上海万博、2015年ミラノ万博の主な施設の概要について、整理をした資料でございます。資料1、資料2につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

#### ○事務局

資料1「21世紀万国博覧会基本構想」（愛知万博の地元基本構想）の主要施設部分抜粋

資料2-1「上海万博施設概要」

資料2-2「ミラノ万博施設概要」について説明

#### ○橋爪部会長

ありがとうございました。上海、ミラノに関しましては、基本構想というよりも、実際の博覧会場の概要・考え方・こういうふうに展示されたというふうな資料でございます。博覧会ごとにテーマから展開する特徴的な展示とかゾーニングとかいうものがなされているわけでありまして、我々もテーマから展開するような何らかの新しいゾーンとか新しいシンボリックなものを考えるべきだと思いますが、先行する博覧会の構想を見ていただきながら、この場でも議論を進めてできればなと思います。前回の会議で、澤田委員から会場内で導入すべき施設等について説明いただいておりますが、配置・ゾーニングについてご意見、考え方等を口火きっていただければと思います。

#### ○澤田委員

基本的には、公式参加国が出展するところがまとまって必要です。それが一つの大き

なゾーンですね。それをいくつかに分類するという点については、アジアとかヨーロッパとか分けることはいいとは思いますが、いずれにしても条件を変えてはいけないので、分けたり、例えば裏と表があったりということは、B I EとしてはN Gであるということなので、公式参加国というのはまとめましょうということです。ただ、公式参加国にも単独のところと、それから集合館になるところがありますので、それが今クラスターと呼ばれたところで、そういう工夫がなされています。それ以外で、公式参加国の中で一番大きいのが、当然主催国、今回でいうと日本政府館が一番大きく出てくるわけですが、それ以外にテーマ館が出てきます。テーマ館は、どちらかという主語が日本ではなくて、国際博覧会ですから、国際博覧会、人類としては地球としてはという主語で、全体のテーマを引っ張っていくパビリオンが必ずつくられるので、これをどうするかというのが、テーマを実際にどうオリエンテーションしていくのかということが、大きな考え方の一つになります。愛知万博ではこのテーマ館が少し弱かったという印象があります。それ以外の所としては、当然今回大阪で行われると、大阪府、大阪市、地元の自治体が、もしくは関西としては、このテーマをこのように考える、こうやっていくと、という形で地元の自治体中心にまとまってくる。それ以外に、今度は企業館ですね、企業・団体がパビリオンを並べるということで、自動車系の自工会さんとか、電気・ガス、それから色々な企業が出てくるということです。ミラノで特徴的だったのは、中国の企業がパビリオン出展していたんですね。あれはおそらく、今まで他国の企業がよその国の国際博覧会にパビリオン出展したのはおそらく初めてだと思われるので、良し悪しはありますが、もしかしたら中国の企業が日本に出展するというのも今後あるのかもしれませんが。大きな考え方としては、そういった公式参加国、で2種類、単独館、集合館があります。これ一つのくりです。それから、その中心としてテーマ館があります。その出展国で一番大きいのは日本館です。それにやや順位は落ちますが、地元の自治体のパビリオンがあり、企業館があると、だいたいそういったところですが、あとは日本で特徴的なのが市民参加のパビリオンが愛知万博ではかなり大きくクローズアップされて、そこがスタートでいろいろな所でできていて、上海でもありましたし、ミラノでもありました。ミラノでいうとパビリオン・ゼロがテーマ館なんですが、地中海の丘とか、子どものパークとか生物多様性とかいくつかのパビリオンができておりますが、これは主催者がテーマ館以外にテーマを実際の社会実験として展開する事業があります。これをどう考えるのかというのがポイントだと思います。だいたいの概要です。

#### ○橋爪部会長

ありがとうございます。海外の企業の展示館というのは70年万博でもコダックやペプシ、アメリカングループの名の共同出展など、日本法人が出しているのかもわかりませんが、アメリカの企業が出展した先例はございます。いま説明ございましたよう



に、テーマ館等に関しまして、あるいはテーマゾーンでもいいのかもしれませんが、テーマから展開するという出展を我々は考えていかなければいけないと。あと、これは最終的に大阪府でまとめる話でありますけれども、基本構想の資料1をご覧ください、いくつかの会場のゾーニングの構成ですね、それに関するテーマから展開する考え方もお考えがあればと思います。愛知の時は自然、地球環境がテーマでございましたので緑のシンボル軸で山村、田園、都市というものを対比させて、テーマを強く訴求するんだという考え方がございました。あと、会場が決まってからの話であります、土地利用に則した展開というものが後段に記されていくことになるかと思えます。我々の部会も、段階を追って項目に関して考え方をつめていくことになろうかと思えます。残り時間がわずかでございますが、ご意見あればお願いします。

#### ○江原委員

大阪万博では、夜の何時までやることになるのでしょうか。上海万博は10時までやりました。万博には、昼の顔と夜の顔というのがあると思います。会場や施設をレイアウトする時に夜の顔をイメージしておくというのも重要だと思います。上海万博を例にとりますと、私の印象ではありますが、一番の見どころというのは、何時間も並んで見るパビリオンよりも、世博軸の巨大な白いシートで覆われたLED建築物にあったと思います。当時、世界最大といってよいLEDの光のショーが連日、参観者の目を楽しませてくれていました。見事としか言いようのないようなすごさがありました。日本館でも夜をどうするかということを考えました。館外で光のショーをやりました。夜をどういう風に演出するかというのは、万博のハイライトの一つだと思います。そのことを、会場や関連施設づくりに反映させるという視点から考えておいた方がいいのかなと思います。

#### ○橋爪部会長

上海万博はデジタルサイネージの大型パネルが市場に出始めた頃なので、各パビリオンは外観だけでなく、展示でも光を使った演出が強く展開されておりましたが、夜の開館は澤田さんと一緒にサラゴサ万博がもっと遅くまで、何時でしたっけ。12時ぐらいいまでスペインの場合は開いていたと思いますが、なかなか会場のアクセスの面もあって何時まで開けるかというのは先の話でございますが、ご指摘ありがとうございます。ほぼ時間が来ておりますが、特にこれだけはというのがあれば、どうぞ。

#### ○澤田委員

今日、バスの中で思ったんですけど、とても暑かったので表に出るのは控えてくださいと言われていた時に、夏に万博をやるといってもどうかなという気もして。森下委員からもインバウンドを考えようという話があって、そういう意味で中国の方をお迎えをする時に国慶節や春節とか寒い時にはたくさん来ていただけるので、今まで冬にやった

万博って一度もないと思いますが、暦年を越えて開催していかどうかをB I Eに聞かないとわからないんですけど、やや冗談みたいな話ですけど、もしかしたらそういうこともあるかなと。ただ、夏と冬を両方やると暖房と冷房が両方必要になるのでどっちかに寄せないといけないのですが。海辺で寒い時も嫌だなとか、また柔軟に一度検討してもいいのではないかなという気がします。

それからナイトイベントはおそらく今までの万博でなかったところはないので、ナイトイベントは必ずテーマに寄った発信として必要だろうと思います。

#### ○江原委員

前もいいましたが、上海万博で一番問題となったのが暑さ対策なんですね。これは日陰を作るとかいろいろな工夫があると思いますが、暑さ対策は、施設づくりとの関係で十分考えておくべきではないかと思います。一言付け加えさせていただきます。

#### ○橋爪部会長

ありがとうございます。開催時期をどうするのかということとですね、基盤整備、会場のあり方はセットになりますので、70年万博の時は、開会の時は3月で雪で始まって、会場は冷房しかなかったと思います。日本で初めて地域全体を冷房するシステムを取り入れたのが70年万博でした。上海万博でも中国では画期的でしたが、会場全体の空調を一括して管理するシステムとして用意されていたというのがございました。基本的に夏開催であれば暑さ対策をどうするのかというのが会場計画上、非常に重要になってくるかと思います。時間が来ておりますが、特に最後何か。

#### ○溝畑委員

さっきの開催時期の問題というのは春夏秋冬いつにするかという問題もあるのですが、結局大阪が世界に発信するのに一番ふさわしい時期というか、関連イベントも含めてどの時期にうまくかみ合わせた方が集客とかあるいは大阪の魅力を発信するとか、あるいは関西の他のエリアで行われているいろんなイベントとの関連とか、そういうことを総合的に判断して決めた方が、形だけにこだわってこの時期というよりも、大阪の特性であるとか、関西の他のエリアとかとの連携ですよね、だから、秋の紅葉の京都というのは世界的に見ても大きなブランドでもあるし、国内の観光でも京都の秋というのはおそらくみんな見たいだろうし、そういったところでどの時期にするかというのはよく総合的に判断した方がいいのかなと思いました。本日、委員のみなさんがおっしゃっていた時期の問題というのはすごく大事な問題なのかなと。特に地球温暖化で、夏、気をつけないと死者が出るのではないかとというぐらい熱中症で、10年後だったらもっと進んでいるのではないかと思うんですよね。だからよく考えた方がいいのかなと思いました。

○橋爪部会長

半年間、6か月の開催期間がありますので、どこから数えて半年かということになりますが、我々大阪が検討している前の2020年万博はドバイで、夏ですかね。

○事務局

ドバイについては下半期の10月から4月という開催です。

○橋爪部会長

ドバイだと真冬で20何度という丁度、クリスマスシーズンがバーゲンとかで一番観光客が寒いところから冬場にリゾートして来られるので、一番の観光シーズンに当てられております。ご指摘ありましたように、ドバイが先例で暦年をまたいでの開催ということですから参考に。

○事務局

ドバイは10月20日から4月10日までの173日間の設定となっています。

○橋爪部会長

それに応じて会場のあり方もかなり変わってくるかと思えます。ありがとうございました。まだいろいろご意見があるかと思えますが、所定の時間が過ぎておりますので、ここで打ち切らせていただきまして、また何かご意見ございましたら事務局に寄せていただければと思います。本日のご意見も事務局で取りまとめていただいて、私から座長へも情報提供を行い、本日欠席の委員の方にも共有してまいりたいと思います。時間が限られており、不十分であったかと思えますが、本日の議事はこれで終了させていただきたいと思えます。ありがとうございました。

○事務局

政策企画部企画室長からあいさつ  
事務連絡

【閉会】